

須賀川市議会 議長 五十嵐 伸 様

中国共産党による臓器収奪の即時停止
ならびに人権状況の改善を求める意見書の提出に関する陳情

陳情者

住所：兵庫県 [REDACTED]

氏名：井田 敏美

電話：[REDACTED]



陳情の趣旨：

中国共産党による臓器収奪を非難し、法輪功に対する迫害に代表される種々の人権侵害の即時停止を求める意見書を日本政府に提出することを要望する。

陳情の理由：

中国では、国際社会からの度重なる非難にもかかわらず、依然として種々の深刻な人権侵害が行われています。なかでも最たるものは臓器収奪で、臓器移植のために、不当に身柄を拘束した人たちから生きたまま臓器を強制的に摘出するということです。これは数量が夥しい上に、刑務所、警察、病院、軍、衛生管理部門が絡む行為であり、実質上国家犯罪と言えます。

にわかには信じ難いことですが、2006年の告発を受けて行われた海外の著名弁護士による詳細な調査によって、それが紛れもない事実だということが明らかになりました。それを受け、2013年に欧州議会で、2016年には米国議会で非難決議案が採択され、2019年には英国で行われた中国民衆法廷の最終裁判で、「臓器収奪は、中国全域で、何年にもわたり、かなりの規模で行われてきており、法輪功学習者がおそらく主な臓器源である。」と結論づけられました。さらに、2022年5月5日には、欧州議会で2度目の非難決議案が採択されました。これらの決議案ではいずれも、臓器収奪の主たる対象は法輪功学習者だと言及されています。(※1)

中国の伝統的な気功修煉法である法輪功(※2)は、1999年から中国共産党政府による大弾圧を受け続けており、臓器収奪の主たる対象とされてきました。人道に反する犯罪であるだけでなく、わが国にとって決して対岸の火事ではありません。

(1) わが国では未だ、不透明な臓器移植が行われている国で移植を受けることを禁ずる法整備が行われていないため、海外への移植を斡旋する業者もネット上で公にPRし、日本人が中国へ渡航して臓器移植を受けるケースが見られます。その場合、収奪された臓器が使われる可能性が極めて高く、そうなれば日本人が間接的に犯罪に加担したことになります。

(2) 人権を重んじ、国際人権規約に批准しているわが国は、他国で行われている人権侵害をも注視し、必要に応じて強く非難する責任があります。中国で行われている法輪功に対する迫害ならびに臓器収奪に対しては、これまで欧米諸国による強い非難が出ており、それにより中国国内では強制労働施設が解体されるなど、一定の効果がありました。日本は隣国であり、友好関係を推進するだけでなく、改めるべきところはきちんと指摘することが求められています。

中国共産党による臓器収奪を非難し、人権状況の改善を求める意見書（案）

中国では、国際社会からの度重なる非難にもかかわらず、依然として種々の深刻な人権侵害が行われています。なかでも最たるものは臓器収奪で、臓器移植のために、不当に身柄を拘束した人たちから生きたまま臓器を強制的に摘出するということです。これは数量が夥しい上に、刑務所、警察、病院、軍、衛生管理部門が絡む行為であり、実質上国家犯罪と言えます。

2006 年の告発を受けて行われた海外の著名弁護士による詳細な調査によって、それが紛れもない事実だということが明らかになりました。それを受け、2013 年に欧州議会で、2016 年には米国議会で非難決議案が採択され、2019 年には英国で行われた中国民衆法廷の最終裁定で、「臓器収奪は、中国全域で、何年にもわたり、かなりの規模で行われてきており、法輪功学習者がおそらく主な臓器源である。」と結論づけられました。さらに、2022 年 5 月 5 日には、欧州議会で 2 度目の非難決議案が採択されました。これらの決議案ではいずれも、臓器収奪の主たる対象は法輪功学習者だと言及されています。

中国の伝統的な気功修煉法である法輪功は、1999 年から中国共産党政府による大弾圧を受け続けており、臓器収奪の主たる対象とされてきました。人道に反する犯罪であるだけでなく、わが国にとって決して対岸の火事ではありません。

- (1) わが国では未だ、不透明な臓器移植が行われている国で移植を受けることを禁ずる法整備が行われていないため、海外への移植を斡旋する業者もネット上で公に PR し、日本人が中国へ渡航して臓器移植を受けるケースが見られます。その場合、収奪された臓器が使われる可能性が極めて高く、そうなれば日本人が間接的に犯罪に加担したことになります。
- (2) 人権を重んじ、国際人権規約に批准しているわが国は、他国で行われている人権侵害をも注視し、必要に応じて強く非難する責任があります。中国で行われている法輪功に対する迫害ならびに臓器収奪に対しては、これまで欧米諸国による強い非難が出ており、それにより中国国内では強制労働施設が解体されるなど、一定の効果がありました。日本は隣国であり、友好関係を推進するだけでなく、改めるべきところはきちんと指摘することが求められています。
- (3) 中国共産党の法輪功に対する迫害が始まって以来、日本人の配偶者や義理の親、日本国籍に帰化した人の親族、日本定住の中国人の親族などが、法輪功を修煉しているというだけで、中国国内で不当に身柄を拘束され迫害を受けるというケースが多々発生しており、中国における法輪功迫害ならびに臓器収奪は直接日本と関わる問題になっていると言っても過言ではありません。
- (4) 日本国内での孔子学院の設立や千人計画への日本人研究者の取り込みのほか、政財界にも中国共産党政権の影響がかなり浸透してきていると言われる中、中国の人権侵害に対して毅然とした態度を採ることは、我が国に禍が及ばないようにし、ひいては国益につながるものと思われます。

ドキュメンタリー

中国共産党に屈しない人々 風雲天地を行く

SOS
Global
Rescue

ドキュメンタリー『風雲天地を行く』は中国共産党（中共）による迫害を受けながらも、屈する事無く真実を伝え続けた法輪功修煉者の姿を記録したものです。

江沢民「3ヶ月で法輪功を撲滅せよ」

ファンゴン ファーン ダーフー

1999年7月20日、当時の中共総書記、江沢民は中国伝統氣功「法輪功」（法輪大法）の修煉者に対して恐怖と嫉妬を感じ「3ヶ月で法輪功を撲滅せよ」と独断で大弾圧を実施しました。当局は江沢民からの「（法輪功修煉者の）名譽を貶し、収入を絶ち、肉体を消滅する」という方針の下、不実な弾圧を正当化するため、法輪功に対して誹謗中傷を浴びせ、デマを宣伝し、擁護するものには圧力を掛け、ひいては焼身自殺事件をでっち上げるなどネガティブキャンペーンを全土で繰り広げました。

真実を伝え続けた法輪功修煉者

法輪功の修煉者はこの大々的な弾圧に追い詰められました。しかし彼らは迫害に怯むことなく、あちこちで静かに自らの無実、潔白を中共の嘘に騙された人々に伝え始めました。迫害の中、一部の者は当局に捕らえられ、その中には臓器を強制収奪され殺される者も少なくありませんでしたが、それでも彼らは真実を伝え続けました。

彼らの不屈の活動は、中共の邪悪な本質を暴露するとともに、世界中の正義と良知ある人々の心を動かし、大きな賛同を呼んでいます。



<https://youtu.be/U21GqieKHOQ>

映像をぜひご覧ください。

THE WORLD MEDICAL ASSOCIATION, INC.
中国における臓器提供に関する WMA 理事会決議
2006年5月18-20日、
フランス、ディボンヌ・レ・バンにおける
第173回 WMA 理事会にて採択

ヒト臓器と組織の提供と移植に関する WMA 声明は、臓器提供における自由と情報を与えられたうえで選択することの重要性を強調しており、

同声明は、囚人や拘留中の人が臓器提供に関して自由に同意できる立場にないことから、彼らの臓器を移植用に利用してはならないと明確に述べており、

中国の囚人は、処刑されると臓器を移植用に採られているとの報告があることから、

WMA は、臓器提供は自由かつ情報を与えられたうえでの同意にもとづき行われるべきであるとの見解をあらためて表明する。

WMA は、中国医師会がこれらの倫理原則と基本的人権の侵害にあたる行為を非難し、中国の医師が処刑された中国の囚人から臓器を摘出または移植することに関わらないようにすることを要求する。

WMA は中国が囚人を臓器提供者として利用することを直ちにやめるよう要求する。

20.5.2006

日医ホーム>世界医師会>
http://www.med.or.jp/wma/06act_ch.html